

いばらきネットモニター ダイバーシティに関する意識調査アンケート結果

1 調査目的

茨城県では、令和3年7月に行った「いばらきダイバーシティ宣言」を機に、ダイバーシティ社会の実現に向けて取り組みを進めています。ダイバーシティに関する認知度や理解度等を調査し、今後の県施策に生かすことを目的としてアンケートを実施しました。

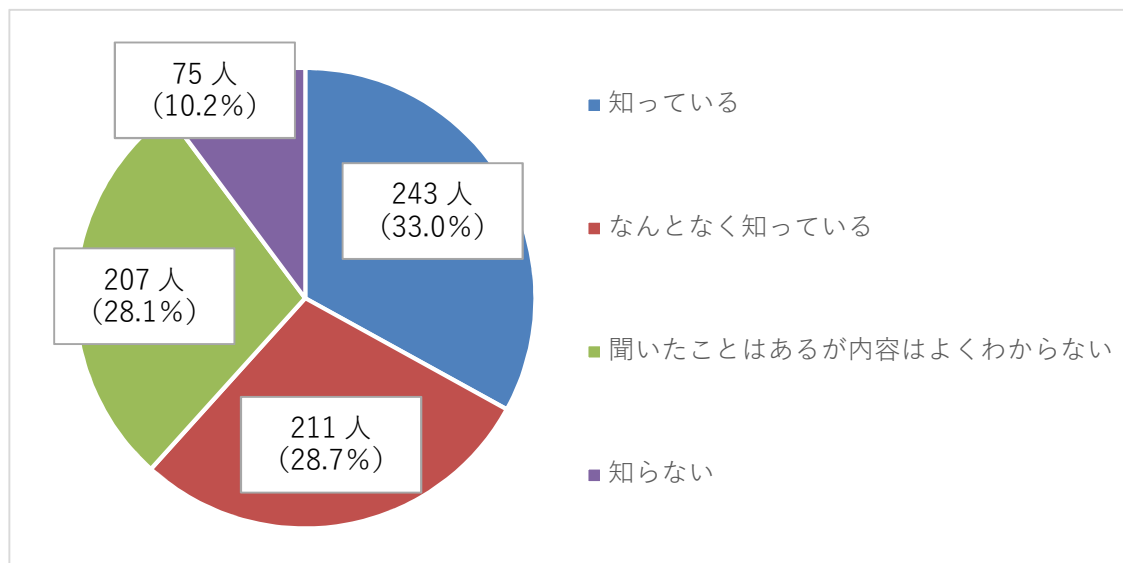
2 結果の概要

- ・「ダイバーシティ」の認知度について、「知っている」、「なんとなく知っている」は61.7%だが、「ダイバーシティ宣言」は、「知っている」、「なんとなく知ってる」は12.3%に留まった。県施策について広く県民に周知を図っていく。
- ・「ダイバーシティ」に当てはまると考えるものについては、性別、国籍・人種、障害、LGBTQなど、属性の多様性と言われる外見的・表面的な多様性に対する認識が高く、個人の能力、経験、知識などに基づく内面の多様性に対する認識が低い傾向がみられた。「ダイバーシティ」に対する理解推進・啓発を行っていく。
- ・ダイバーシティ推進のための取組として、「ダイバーシティ推進に取り組む企業・事例等の紹介」、「若年層（児童・生徒・学生）への教育」の回答が多かった。

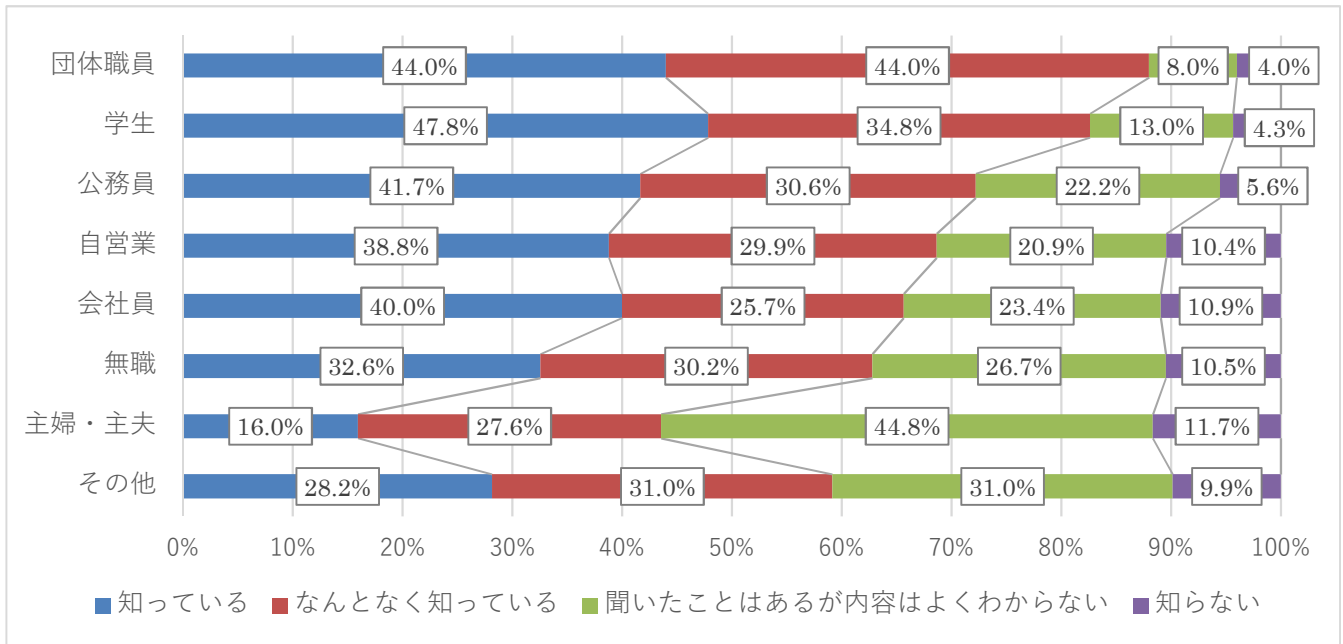
【問1】（「ダイバーシティ」の認知度）

あなたは、「ダイバーシティ」という言葉を知っていますか。次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(n=736)



<職業別「ダイバーシティ」の認知度>

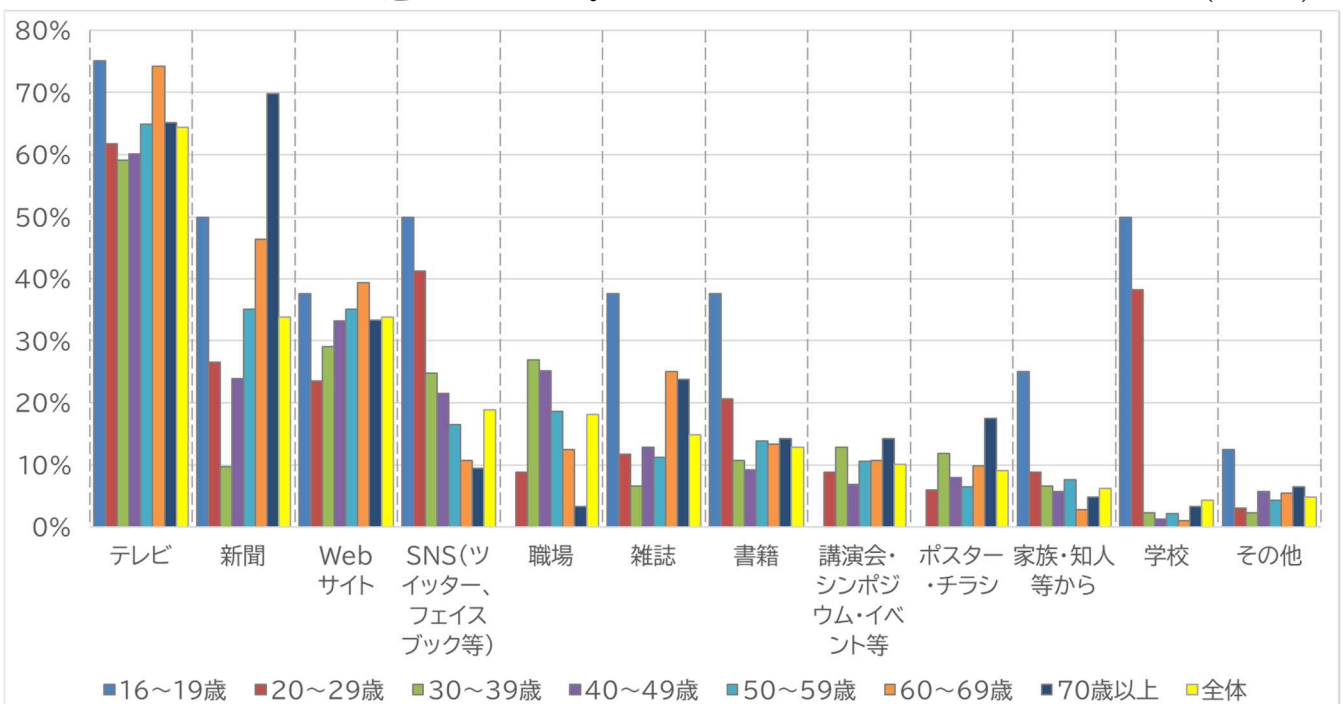


○全体の回答から、「知っている」、「なんとなく知っている」と答えた回答者は61.7%であった。
 ○職業別にみると、「団体職員」、「学生」、「公務員」の順に認知度が高く、「主婦・主夫」、「無職」の認知度が低い結果となった。

【問2】（「ダイバーシティ」を知ったきっかけ）

（問1で「1.知っている」「2.なんとなく知っている」「3.聞いたことはあるが内容はよくわからない」と回答された方へお伺いします）

あなたが、「ダイバーシティ」という言葉を知った（または聞いた）きっかけは何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。（n=661）



	テレビ	新聞	Web サイト	SNS (ツイ ッター、フ ェイスブ ック等)	職場	雑誌	書籍	講演会・ シンポジ ウム・イ ベント等	ポスタ ー・チ ラシ	家族・ 知人等	学校	その他
10代	75.0%	50.0%	37.5%	50.0%	0.0%	37.5%	37.5%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	12.5%
20代	61.8%	26.5%	23.5%	41.2%	8.8%	11.8%	20.6%	8.8%	5.9%	8.8%	38.2%	2.9%
30代	59.1%	9.7%	29.0%	24.7%	26.9%	6.5%	10.8%	12.9%	11.8%	6.5%	2.2%	2.2%
40代	60.1%	23.9%	33.1%	21.5%	25.2%	12.9%	9.2%	6.7%	8.0%	5.5%	1.2%	5.5%
50代	64.9%	35.1%	35.1%	16.5%	18.6%	11.2%	13.8%	10.6%	6.4%	7.4%	2.1%	4.3%
60代	74.1%	46.4%	39.3%	10.7%	12.5%	25.0%	13.4%	10.7%	9.8%	2.7%	0.9%	5.4%
70代以上	65.1%	69.8%	33.3%	9.5%	3.2%	23.8%	14.3%	14.3%	17.5%	4.8%	3.2%	6.3%
全体	64.4%	33.7%	33.7%	18.9%	18.2%	14.8%	12.9%	10.1%	9.1%	6.1%	4.2%	4.7%

※問1で「知らない」と回答した人以外の人数（661人）を100%として全体を算出
各年代についても、それぞれ「知らない」と回答した以外の人数を100%として算出

- 全体の回答から、「テレビ」、「新聞」、「Web サイト」で「ダイバーシティ」という言葉を知った（または聞いた）と回答した人が多かった。
- 「新聞」で知った（または聞いた）と回答した人の割合は、年代が上がるほど高くなる傾向が見られた。
- 「SNS（ツイッター、フェイスブック等）」で知った（または聞いた）と回答した人の割合は、年代が下がるほど高くなる傾向が見られた。
- 「学校」で知った（または聞いた）と回答した人の割合は、10代と20代が他の年代より高く、20代以下の年代は、学校教育で「ダイバーシティ」について学ぶ機会が提供されていることがわかる。
- 「その他」として、次のような意見が挙げられた。
 - ・ラジオ
 - ・アニメ

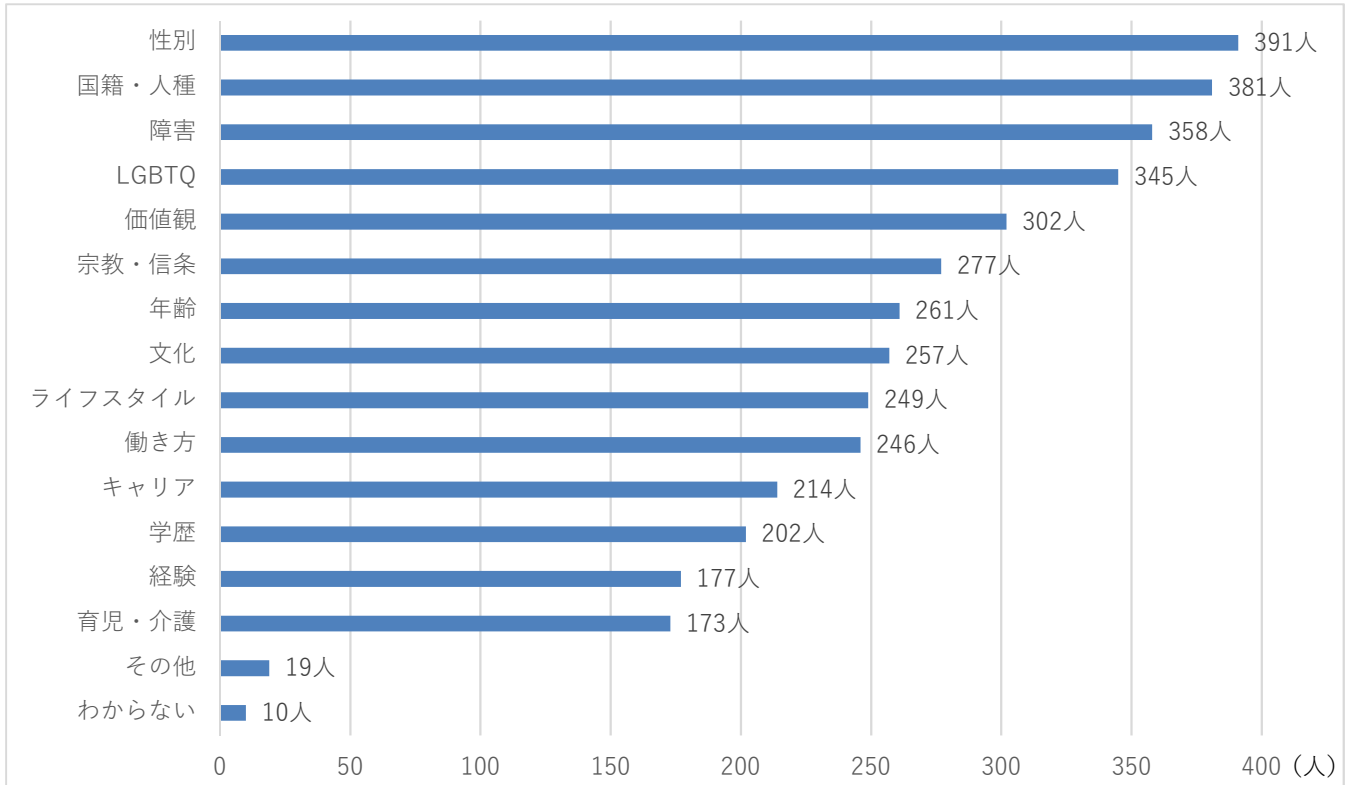
など、31件のご意見がありました。

【問3】（「ダイバーシティ」に当てはまると思うもの）

（問1で「1.知っている」「2.なんとなく知っている」と回答された方へお伺いします）

次のうち、「ダイバーシティ」にあてはまると思う項目は何ですか。次の中からあてはまると思う項目を全て選んでください。

(n=454)



○「ダイバーシティ」にあてはまると考えるものについては、「性別」、「国籍・人種」、「障害」、「LGBTQ」の回答が多く、「育児・介護」、「経験」、「学歴」、「キャリア」が少なかった。

○属性の多様性と言われる外見的・表面的な多様性に対する認識が高く、個人の能力、経験、知識などに基づく内面の多様性に対する認識が低い傾向がみられた。

○「その他」として、次のような意見が挙げられた。

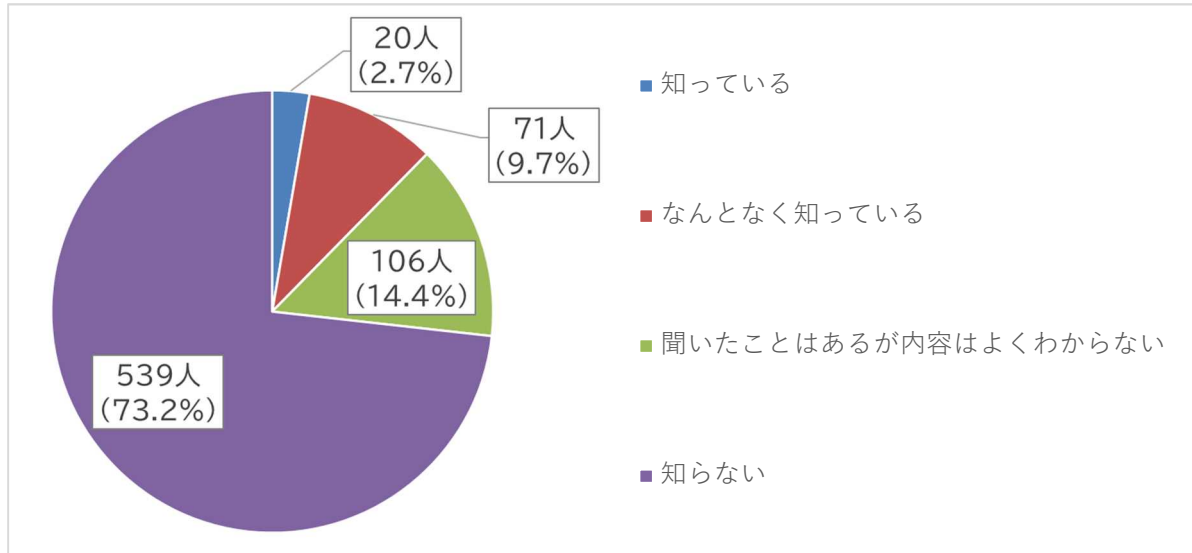
- ・言語（方言を含む）
- ・体質
- ・趣味嗜好

など、19件のご意見がありました。

【問4】（「いばらきダイバーシティ宣言」の認知度）

あなたは、茨城県が募集をおこなっている、「いばらきダイバーシティ宣言」（※）を知っていますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

(n=736)



（※）「いばらきダイバーシティ宣言」とは

茨城県では、性別等にかかわらず、一人ひとりが尊重され、誰もが個々の能力を発揮できる社会、多様性が受容されるダイバーシティ社会の実現に取り組むため、令和3年7月に、県内の経済団体、業界団体等とともに「いばらきダイバーシティ宣言」を発表しました。

詳しくは、茨城県ダイバーシティ推進センター「ぽらりす」ホームページをご覧ください。

茨城県ダイバーシティ推進センター「ぽらりす」HP：<https://www.diversity-ibaraki.jp/declaration.html>

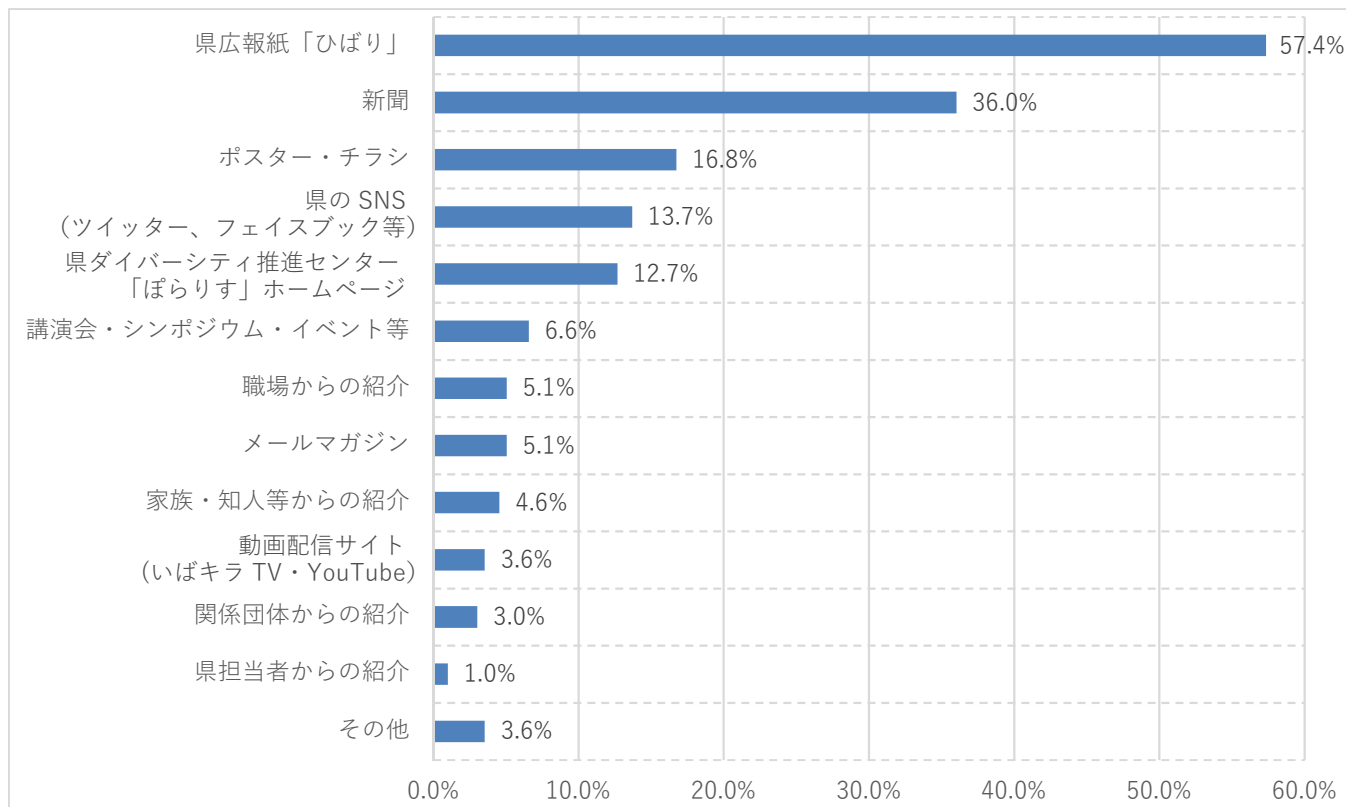
○「いばらきダイバーシティ宣言」を「知っている」、「なんとなく知っている」、「聞いたことはあるが内容は分からない」と回答した人は、合わせて197人（26.8％）に留まり、539人（73.2％）が「知らない」と回答した。

【問5】（「いばらきダイバーシティ宣言」を知ったきっかけ）

（問4で「1.知っている」「2.なんとなく知っている」「3.聞いたことはあるが内容はよくわからない」と回答された方へ）

あなたが、「いばらきダイバーシティ宣言」を知った（または聞いた）きっかけは何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

（n = 197）



※問4で「知らない」と回答した人以外の人数（197人）を100%として算出

○「いばらきダイバーシティ宣言」を知った（または聞いた）きっかけとして、県広報紙「ひばり」、「新聞」の回答が多かった。

○「その他」として、次のような意見が挙げられた。

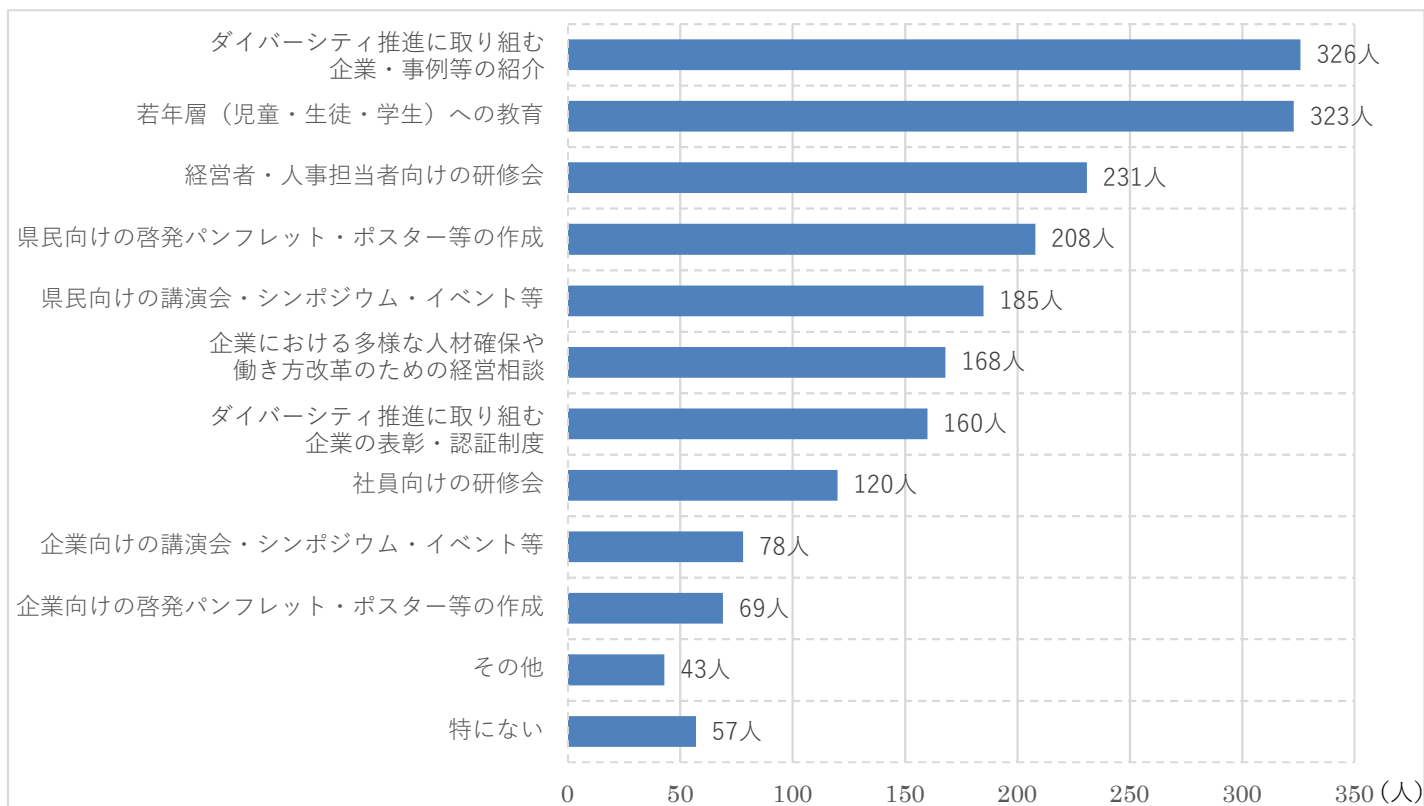
・ラジオ

など、7件のご意見がありました。

【問6】（ダイバーシティ推進のための取組）

ダイバーシティ推進のために、今後行政がどのような施策に取り組んでいくべきだと考えますか。次の中からあてはまるものを最大3つまで選んでください。

(n = 736)



○「ダイバーシティ推進に取り組む企業・事例等の紹介」、「若年層（児童・生徒・学生）への教育」の回答が多かった。

○「その他」として、次のような意見が挙げられた。

- ・ SNS 等を使った動画配信
- ・ テレビ等の特集で県の取組を紹介
- ・ ダイバーシティを推進するような条例の制定
- ・ 基準を満たした企業に対するインセンティブ付与

など、43 件のご意見がありました。

（※）「ダイバーシティ」とは

ダイバーシティ(Diversity)は、直訳すると多様性を意味します。近年、企業においてダイバーシティの推進が重視されており、性別、年齢、人種や国籍、障がいの有無、性的指向、宗教・信条、価値観などの多様性だけでなく、キャリアや経験、働き方なども含め、多様な人材の活躍に向けた取組が進められています。

【問7】

ダイバーシティ推進に関する施策に対して期待することや、ご意見・ご要望等がありましたら、自由にお書きください。(200 字以内)。

- ダイバーシティという言葉の意味がよく理解されないまま、キーワードとして独り歩きしている感がある。わかりやすい日本語での解説とともに施策を進めていく必要があると思う。
- 国や地方公共団体等、公の機関による全国的な啓発運動が絶対に必要と考える。ダイバーシティに関して「全く知らない」「なんとなくしか知らない」という人を無くすることが肝要と考える。
- 多様な人材を活用していかないと、日本はますます衰退していくので、もっと危機感を持って取り組んだ方が良い。
- 形ばかりのものとならないよう、県庁や市役所など、行政の現場で多様性が認められる状態を作り出すと同時に、その状況を広く伝えていかなければならないと感じます。
- 茨城県内の、ダイバーシティ推進に取り組む企業、団体、学校などの情報やニュースを、普段の生活でもっと気軽に知れると良いと思いました。
- 日常生活でも多様性を感じるようになってきた昨今、正しい理解と対応が求められるようになったと感じています。イベント等でダイバーシティの推進が図れるといいなと思います。
- テレビで特集してもらうのは、いかがでしょうか。キャンペーン的な側面だけでなく、課題や現状なども広く知ってもらいたいです。ある程度のボリュームや内容のあることを伝えるのに、テレビは分かりやすい媒体だと感じています。
- 県民の認知度はほとんどないと感じる。具体的取組・目的を周知すべき。抽象的すぎる施策は実現不可能。
- まだまだ認知度が低いと思いますので、広く県民に認識してもらえそうな施策を行う事。特に教育現場からの施策が良いと思う。
- 様々な世代に周知させる活動がもっと頻繁にあるといい。また、過疎地や高齢者には無関係なものに捉えがちな内容に思うので、地方が取り残されたりしないのが望ましいと感じる。
- 身近な問題と認識していなかったが、子供の学校や SNS を通じて知っていたので、なんとなく聞いたことがあった。子供や若い人達は、ダイバーシティについて学んだり、話題にしたりする機会があり、良いことだと思う。大人ももっと興味を持った方が良いと思った。
- 県民全員への啓発はもちろん、特にこれからの時代を担う若い人たちへの啓発に力を入れてもらいたい。
- このアンケートを通して県がいろいろなことをやってくれているんだなと感じた。でも、正直知らなかったし、知る機会が少ないと思う。専業主婦で公共の場に出掛ける頻度が少ないと、こういう活動を知ることが少なくもったいないと感じる。
- 私はダイバーシティを『人は全員違う「個性・特性」を持っており、それを尊重する』と解釈し、理解しようとしています。「ダイバーシティ」とひとつの言葉で括っていますが、内容は非常に幅広く理解が難しい事柄だと感じています。言葉は聞くけど何となくしか分からない方がほとんどだと思うので、具体的項目を SDGs のように視覚的にまとめると理解が深まるのではないのでしょうか。
- 多様性が認められて自分や家族を含め県民が幸福に生活できるようになれば素晴らしいことだと思います。中高年の方が意識を変えることが難しいと思うので、積極的に企業研修を促したり、高齢者向けの講習会をしたりして欲しいです。
- 企業などには、強制力のある研修などを義務付けなければなかなか浸透しないと思う。周りで話していても、テレビや雑誌、ネット、広報誌などの情報源では、自分に関係ない、遠い場所の出来事のようにとらえている人が多いと感じている。

など、281 件のご意見がありました。

3 調査の概要

(1) 調査形態

調査時期：令和4年10月31日（月）～11月13日（日）

調査方法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

モニター数：1,154名

回収率：63.8%（736名）

回答者の属性：以下の通り。ただし、百分率表示は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、個々の比率の合計は100%にならない場合がある。

		人数（人）	比率（%）
全体（n）		736	100.0%
地域別	県北	57	7.7%
	県央	230	31.3%
	鹿行	36	4.9%
	県南	226	30.7%
	県西	58	7.9%
	県外	129	17.5%
性別	男性	343	46.6%
	女性	385	52.3%
	その他	3	0.4%
	回答しない	5	0.7%
年齢別	16～19歳	9	1.2%
	20～29歳	36	4.9%
	30～39歳	105	14.3%
	40～49歳	187	25.4%
	50～59歳	206	28.0%
	60～69歳	123	16.7%
	70歳以上	70	9.5%
職業別	自営業	67	9.1%
	会社員	265	36.0%
	団体職員	25	3.4%
	公務員	36	4.9%
	主婦・主夫	163	22.1%
	学生	23	3.1%
	無職	86	11.7%
	その他	71	9.6%

(2) 担当課

茨城県県民生活環境部女性活躍・県民協働課 ダイバーシティ推進センター「ぼらりす」

電話：029-233-3982 E-mail：sankaku@pref.ibaraki.lg.jp